

Y3-36

流行性ウイルス疾患の抗体価検査・ワクチン接種の取り組みについて

庄原赤十字病院 医療社会事業部

藤原由佳里、足羽 晶子、宮原 幸恵、
山根 啓幸

【はじめに】近年、安全な療養環境を提供するとともに、職員の衛生管理の観点から、麻疹・風疹等流行性ウイルス疾患の抗体価検査、およびワクチン接種が推奨されている。当院においても、平成18年度に全職員に対し抗体価検査を実施し、陰性者に対しては順次ワクチン接種を行ってきた。しかしICTからの指摘で、問題点・危険性が浮き彫りになってきたことから、今年度改めて、全職員に対し抗体価検査・ワクチン接種を実施し、ワクチンプログラム、新入職者の検査方法の修正に至った経緯を以下に報告する。

【実践・結果】現在の問題点・危険性に対し、ICTからの情報提供、様々な文献やガイドラインを参考に、衛生委員会・ICTで協議を重ね、ワクチンプログラムを修正し、接種の優先順位を明確にした。また抗体価は年数とともに減弱することから、抗体価を5年おきに再検査することとした。さらに入職直後より感染のリスクがあることから、新採用者には事前の抗体価検査・ワクチン接種を勧奨し、勤務開始前に抗体を保有できるようなシステムを確立した。職員への説明文や結果記入用紙等の文書類を新たに作成し、費用についても協議を行い、病院長・院内感染対策委員会の承認を得て、実施するに至った。

【結語】発症するリスクの高い患者が多い医療機関において、職員の衛生管理上、職員に抗体価検査を行い、陰性者に対しワクチン接種を行うことは非常に重要である。今回、明確な根拠・必要性を提示した上で、当院の現状に即した形でプログラムを修正することで、スムーズに実施することができたと考える。今後もこの取り組みについては定期的な評価を行い、ICTとの連携により、必要度とコスト面も考慮し最善の方法を検討していきたい。

Y3-37

医療現場における高水準消毒作業の実態と運用の改善

北見赤十字病院 院内感染対策委員会ICT

森 正史、松澤由香里、鈴木 望、
八矢 幸美、古田 英子、金田 孝弘、
安田 篤志、尾栢 隆、浅尾 淑子、
小笠原ゆずみ

【はじめに】当院では内視鏡（消化器内視鏡除く）の器械消毒を各科現場で実施しており、現在グルタール製剤を使用している現状である。2005年2月に厚労省労働基準局よりグルタールの健康障害防止についての通知があったが、ICTラウンドでの各現場の実態を受け、改めて高水準消毒薬の適正使用と運用を変更したので報告する。

【方法】ICTラウンドでの結果として、適正な洗浄、消毒がされていない現状。部署単位での適切な洗浄消毒作業を指導する。同時に防護具（以下PPE）の適正使用も指導する。作業環境の見直しも行い、グルタール製剤と同等の効果が期待できる他の消毒薬への変更も実施した。

【結果】部署単位での指導では洗浄消毒作業の知識が乏しく作業従事者における健康障害の情報を加味しながらPPEの必要性を指導し。適正作業を確立した。その後においても定期ICTラウンドで観察指導を継続し定着性を確認している。

【結語】今回のような健康障害における通知に対して施設としての対応が曖昧だった背景には組織運用の問題が挙げられる。医療安全が中心となり通知内容を施設に合わせて基準を迅速作成し実行すべきと反省している。第一線の作業従事者が安全に働ける環境作りを目標として、今後においては感染予防と医療安全の観点からICTラウンドを実施して行く。